

江戸時代の浄土宗僧と 真宗僧による一念義研究

講師 森 新之介 先生

（早稲田大学高等研究所招聘研究員）

【日程】2025年10月21日(火)

【時間】15:10～16:50(4時限目)

【場所】総合仏教研究所 研究室1(3号館4階)

本研究所では学外の研究者を講師にお迎えし、ご講演いただきます。
どなたでも聴講できますので、ふるってご参加ください。(予約不要・聴講無料)

【講義概要】鎌倉時代に浄土宗を立てた法然・源空の弟子に、成覚房幸西(1163-1247)がいた。幸西の新しい思想は「一念義」と呼ばれ、その門流は南北朝時代くらいに絶えたらしい。

数百年後の江戸時代になって、源空を祖師とする浄土宗(鎮西流)と真宗(本願寺派、大谷派)の学僧たちは、幸西の一念義について研究していった。江戸時代の一念義研究は、当時の浄土宗と真宗の学問状況を知るために有益な題材である。またそれら研究には、優れた知見でありながら埋もれてしまい、後の研究に継承されていないものもある。

そこで本講座では、江戸時代の浄土宗僧と真宗僧による一念義研究と、その今日の研究についての意義を紹介したい。

【問い合わせ先】大正大学総合仏教研究所 03-3918-7311(代表)

http://www.tais.ac.jp/library_labo/sobutsu/

※日程等に変更が生じた場合は、随時、上記HP上にてご案内いたします。